

令和２年度 学校関係者評価報告

I. 学校関係者評価委員会の実施

1. 実施日：令和3年4月14日（水）
2. 評価者：久木田学園看護専門学校 学校関係者評価委員4名
3. 議 題：1) 令和２年度 自己評価結果について
2) 令和元年度 事業計画の実績報告
3) その他
4. 実施方法

学校関係者評価委員会において、学校関係者評価委員の皆様「教育自己評価」の結果及び考察と今後の課題を学校職員より説明し、その他教育活動目標、教育目標に対する卒業時の到達度を参考に評価結果に対するご意見をいただいた。

II. 評価結果（3点満点）

評価項目	評価点（平均）
1. 教育理念・教育目的	2.8
2. 教育目標	2.8
3. 教育課程経営	
1) 教育課程経営者の活動	2.4
2) 教育課程編成の考え方とその具体的な構成	2.9
3) 科目、単位構成	2.8
4) 教育計画	2.6
5) 教育課程評価の体系	2.5
6) 教員の教育・研究活動の充実	1.9
7) 学生の看護実践体験の保障	2.5
4. 教授・学習・評価過程	
1) 教授内容と教育課程との一貫性、看護学としての妥当性、授業内容間の関連と発展	2.7
2) 授業の展開過程	2.5
3) 目標達成の評価とフィードバック	2.4
4) 学習への動機づけと支援	2.5
5. 経営・管理過程	
1) 設置者の意志・指針	2.8
2) 組織体制	2.5
3) 財政基盤	2
4) 施設設備の整備	2.2
5) 学生生活の支援	2.4
6) 養成所に関する情報提供	2.6
7) 養成所の運営計画と将来構想	2.2
8) 自己点検・自己評価体制	2.2
6. 入学	2
7. 卒業・就業・進学	2

Ⅲ. 学校関係者評価

1. 教育理念・教育目的

- ・教育理念は、「人間愛」を根底に豊かな人間性を育み、「独立自尊」の精神で主体的な学習を目指し、自身の健康と人間の尊厳を考え守ることができるということと合わせて常に自己研鑽できる看護師の育成を基本に教育課程を構築してある。学校の教育目的に沿った教育目標の策定を行い、体系的に実施している。
- ・本校の授業の特性は姉妹校である鍼灸学校の東洋医学1単位が組まれている。看護師に有用な実践教育である。
- ・教育理念・教育目的は学生便覧に明示し、入学時に便覧、講義要項（シラバス）を配布し、入学オリエンテーションで説明を行っている。
- ・卒業時に持つべき資質としての社会に対する看護の質は、卒業時の特性で述べている。しかし、社会情勢の変化により地域との連携など不足している部分もある。

2. 教育目標

- ・学生便覧に教育目標は明示してある。また、学年別到達目標から各学年の行動目標を立て指導を行っている。しかし、教育目標は教育理念・教育目的と一貫性はあるが、教育目標の意図が成文化されていない。
- ・教育目標は、看護実践者としての能力を育成する側面、学習者としての成長を促すため側面、卒業後の継続教育の考え方を設定している。

3. 教育課程経営

1) 教育課程経営者の活動

- ・教育課程と授業実践、教育学評価との関連性を明確に理解している教員は少ない。教員養成講習を修了した教員が少なく、経験の浅い教員の指導体制も不足している。
- ・専任教員の要件を満たすために、教員養成課程未受講の教員については、3名の教員に放送大学入学と教育に関する4単位修得、及び1名の教員は通信教育で大学の看護教員養成課程で履修中である。

2) 教育課程編成の考え方とその具体的な構成

- ・看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成し、それぞれの教育内容を網羅する科目を設定し、科目の学習到達目標を明示している。

3) 科目、単位構成

- ・それぞれの科目について設定理由並びに教育課程で考え方を明示しているが、単元の考え方、関連する科目、関連性は不足しているため、随時修正を行う。
- ・本校の特徴としては、東洋・西洋の両医学は学校の特色を表す科目である。

4) 教育計画

- ・単位履修の方法とその制約について学生便覧、学習評価規定に明示している。学生便覧、学習評価規定は入学オリエンテーションで説明を行っている。また、随時、学生へ指導を行っている。
- ・単位修得は、学生に不利益が生じないよう、教務会議を経て柔軟な対応をしている。
- ・単位履修制の考え方、科目の配列については、実習との兼ね合いもあり、履修の順序性に課題がある。

5) 教育課程評価の体系

- ・単位認定の基準は、指導ガイドラインを遵守し、評価規定を基準として認定している。単位認定については、学則及び評価規定に文章化されており妥当である。
- ・単位互換については、入学時に申請し、単位を認定する体制が整っている。
- ・評価結果の活用における倫理規定については、明示していないため今後作成する必要がある。

6) 教員の教育・研究活動の充実

- ・経験の浅い教員もあり、教員の担当科目と時間数は専門性が発揮できる配分とは言えない。専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分することが課題である。
- ・学年担当業務に追われ、授業準備の時間を就業時間にとることが難しい状況がある。就業時間内に、授業準備の時間を取れるよう業務の見直しを行う必要がある。
- ・教員の研修参加は積極的に促している。令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で学会参加は難しい状況だったが、参加可能な研修には参加し、またオンライン研修を受講するなど教育の質の向上に努めている。また、研究授業も計画し、実施できている。
- ・研究授業を行うことにより、十分な授業準備の必要性・教材を精選することの重要性・学生の主体的な学習を促す授業方法の工夫など教員自身の学びも大きい。今後も評価の視点を明らかにし、研究授業に取り組む。

7) 学生の看護実践体験の保障

- ・臨地実習施設に対して、実習打合せの際に本校の教育理念・教育目的・教育目標について説明している。
- ・各実習施設は、指導者を配置、週計画をもとに学生の看護実践の学習を支援する体制を整え協働して指導ができる状況である。
- ・臨地実習指導者、教員の役割を明文化したものがないため、今後検討・作成する必要がある。
- ・学生の臨地実習での事故は、レポートを提出し自己の振り返り、今後の課題を明確にするシステムはあるが、分析するためのシステムは整備されていない。

4. 教授・学習・評価過程

1) 教授内容と教育課程との一貫性、看護学としての妥当性、授業内容間の関連と発展

- ・授業内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されており、授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性を考え講義要項（シラバス）を作成し、明示している。
- ・授業内容の重複、整合性、発展性については改善が必要である。看護技術のマトリクスはあるが、教育全体のマトリクスの整備をしていく。

2) 授業の展開過程

- ・授業計画は立案されている。授業形態については、学生の理解を促すために工夫を行っているが、一方向の授業形態に偏る科目もある。
- ・授業展開については、初講時に説明を行っているが授業の工夫や意図的に選択した学習は支援できていない。
- ・研究授業を継続し、効果的な授業方法に取り組めるよう改善策を考える。

3) 目標達成の評価とフィードバック

- ・それぞれの科目で評価計画を明示し、実施している。しかし、評価結果をフィードバックできていない科目もあり、フィードバックできる体制作りが必要である。
また、評価方法は、試験による偏っている側面があり課題である。
- ・単位認定試験のための評価基準と方法は、講義要項（シラバス）及び評価規定で学生に明示している。今後は、ホームページでも公表していく。
- ・卒業時到達度アンケートの結果では概ね達成できている。多面的な評価部分は、卒業生にもっと働きかけて調査することで見えてくるのではないかと考えている。

4) 学習への動機づけと支援

- ・常に情報交換しながら、一貫性のある指導ができるようにしている。しかし、学生個々に応じた指導が行えていない状況もあり、学生の動機づけに至っていない場面もある。教員個々のスキルアップと教育の方向性の一貫した考え方の伝達をより重点的に行う必要がある。

5. 経営・管理過程

1) 設置者の意志・指針

- ・教育理念・教育目的についての考え方、教育課程経営についての考え方、教育評価についての考え方、教育評価については便覧及び教育課程に明示してある。
- ・学校の管理運営の考え方は、学校ホームページに明示し、設置者の意志を示す文書は学生便覧に明示している。
- ・財政基盤・養成所の将来構想については、運営会議で討議されているが文章化されたものはない。運営会議の内容については、職員会議で報告し、管理者の考え方を伝達している。

2) 組織体制

- ・業務分掌を作成し、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。また、最終決定者は学校長であり、意思決定システムも明確である。決定された事項は職員会議・教務会議で周知できている。

3) 財政基盤

- ・評価項目の中で評価平均が一番低い。財政基盤について明確な文書がなく、教職員への周知の場も整えられていない。教職員の意見は運営会議等で報告するが、教員は全てが反映されてはいないと評価している。

4) 施設設備の整備

- ・学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している文章はなく、整備計画も不足している。施設設備は、ガイドライン及び授業計画に基づき整備している。また、学校移転を機に新カリキュラムを見据えて、施設設備の見直しを行い整備している。
しかし、新しい校舎になりハード面は整備されたが、小グループでの学習環境、学生間で交流できるスペース等の整備が難しい面もある。

5) 学生生活の支援

- ・学生の支援対策として、奨学金制度、学校カウンセラーの配置、教育相談、保護者との連携を適宜実施している。
- ・校内及び実習棟のWi-Fi環境を整えている。

6) 養成所に関する情報提供

- ・教育・学習活動については、保護者等に管理方針、学習状況など文書で提示している。学習状況についても保護者等に適宜連絡を取り、協力・支援を頂いている。
- ・自己点検・自己評価を行い、令和2年度からホームページに公表している。公表内容については、今後検討し、社会的説明責任に近づけていく必要がある。

7) 養成所の運営計画と将来構想

- ・明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画・短期計画・年間計画を立案した文書はない。また、実施した内容の評価は業務実績報告で行っているが、将来構想と整合性をもっているとは言えない。運営会議を介して検討課題として提案していく。

8) 自己点検・自己評価体制

- ・平成26年度から全教員、点検表に沿って自己評価を行っているが、教員全員が自己点検・自己評価を行うための知識と方法をもっているとは言い難い。また、これまでは公表・学校関係者評価を実施しておらず、令和2年度から実施した。
- ・分析から課題を見出し、課題の改善、教育理念・教育目的へのフィードバックは不十分であり、今後課題を見出し、改善策を考えるシステムづくりを整備していく必要がある。

6. 入学

- ・入学選考の種類については、募集要項、ホームページで明示している。受験者数も定員に満たず全入学となっており教育理念・教育目的を反映した選抜になっているとは言えない。

7. 卒業・就業・進学

- ・学生便覧に卒業時目標は明示してある。卒業時、学年別アンケート、技術到達度のアンケートを実施し分析を行っているが十分とは言えない。今後は、分析結果をもとに改善策を考え、次年度の教育計画に反映できるシステム作りが必要である。
- ・卒業時の就業・進学状況については把握しているが、分析はできていない。そのため、教育理念・教育目標との整合性については検証できていない。
- ・卒業生の評価、問題点については、病院等からの学校訪問、電話等により適宜情報交換を行い状況は把握できている。しかし、課題改善のための体制づくりや計画はできていない。今後は、学生の就業先・進学先や学生にアンケートを実施するなど体制の整備と計画を行っていく必要がある。

8. その他：各委員よりの講評

- ・自己点検・自己評価の内容は文部科学省と合致しており、これで良い。いつも問題になるのは、客観性の問題。出来るだけ客観的に評価するシステムが必要。知識・技術・態度の評価があるが、態度が備わっているかの評価が極めて難しい。将来は、医療の現場の人から評価してもらい確認すると良い。
- ・教育評価にGPAを導入すると良い。国家試験はどこで落ちたのか、GPAを見て教育に活かす。GPAが高い人が国家試験に落ちるということは、単位の認定が甘いということ。GPAは、客観的な教育効果が見え、これくらいあれば国家試験に合格できると予測ができる。→昨年の途中からGPAを導入している。次年度は結果を示していきたい。
- ・その他は問題点も整理しており、課題・改善点も見出されている。

- ・地域貢献として年1回公開講座を開催することも1つ。
- ・国際交流は、国の多様性を学ぶこと。そのことを学生に教え理解させる。→現行の教育課程では不足している。新カリキュラムでは、新規に科目立てしていく予定で、講師も決定している。
- ・10何年講師をしているが、今まではほとんど講義中居眠りする学生はいなかったが、今年度は寝ている学生がいる。また、イエス、ノーをはっきり言わない。学生の状況は教員の評価に繋がる。
- ・学生時代には知り得なかった裏側を見た。大変なご苦労があるとわかった。
最近、多様性・ジェンダーレスが言われており、他の学校では制服を着れない学生も散見されると聞く。制服の問題やトイレの問題などにも目を向ける必要があるのではないか。
- ・姉妹校である立場からは、昨年看護学校と多職種連携教育学を行った。未来発展を考えれば、相乗効果があると思う。それぞれの長所を教育の場に活かし、交流を深めることで他の学校には特色が生まれると考える。看護教員を信頼している。今後も期待していきたい。

【学校関係評価委員】

1. 関連業界等関係者：1名
2. 卒業者、保護者等：1名
3. 教育に関し知見を有する者：1名
4. その他校長が必要と認める者：1名
5. 立合者：4名